



【313】

コンサルにもSDGsを

事業再生や事業承継・M&A（合併・買収）コンサルティンクを手掛けるエクステンドは、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みが、日本国内で広く浸透していることに注目。けん引役である地域金融機関と連携強化を図るため、コンサルにもSDGsを取り込む。沖原厚則代表取締役（57）に狙いを聞いた。

エクステンド

代表取締役 沖原 厚則氏

——きっかけは。

「当社は全国の金融機関と連携し、中堅・中小企業の事業再生やM&Aを手掛けている。案件の紹介元である地域金融機関が相次いでSDGs宣言をしており、その方針に沿った事業展開が求められている。また、大手企業も買収や新規取引する企業のSDGsへの取り組み姿勢を注視している。そのためコンサルを行うにあたっては、顧客である企業経営者に対しても、売り上げや利益だけでなく、持続可能なビジネスの構築といった意識高揚を図っていく必要がある」

——具体的には。

「地域金融機関はSDGsに取り組む企業を、私募債や投資を通じてサポートしている。当社は顧客企業にこれら制度・商品を組み込んだ経営計画の策定を支援していく。金融機関は地域版SDGsの普及促進を図ると同時に、事業者は金利軽減措置によるコスト削減や資本増強などのメリットが受けられる。さらに、公共団体に寄付する制度を活用することで、両者のイ

メージアップにも寄与できる」

——研修は。

「3月6日と20日に開催された『第1回全国高校生SDGs選手権2020』に協賛。名古屋国際高等学校の学生が『パートナシップで地域に活力を』テーマに、当社の経営戦略を考案・発表した。21年度からは、それらアイデアを取り入れた新事業にチャレンジする方針だ。また、SDGsに精通した講師を招き、社内研修を実施するほか、社員の資格取得にも注力する」

（聞き手）栗田 俊輔

おきはら・あつのり 大阪府出身、57歳。2005年フィナンシャル・インスティテュート入社、15年12月にMBOにより同社を譲受、エクステンドに商号変更し代表取締役に就任。